

児童・生徒の現状・課題

- ・学習面において、自信をもっていない児童が多い。
- ・国語、算数ともに全国や東京都平均より大きく下回っている。
- ・学校以外で勉強する時間が極端に短い。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○学習の中で選択の場面を積極的に設定することで、児童が自分の考えをもち、学習できるようにする。

**具体的な手だて①**

導入で単元の流れを確認し、どのような学習を進めていくかを知り、児童が計画的に取り組めるように見通しをもたせる工夫を行う。

具体的な手だて②

授業や行事の終わりに学習感想を書くなど、振り返りをする時間を意図的に設定する。キャリア教育の一環と捉え、繰り返し取り組むことでPDCAサイクルの実現に努める。

具体的な手だて③

Chromebook やプロジェクターを活用し、教材を共有したり協働学習に取り組ませたりする。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	69%	75%	
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など学び方を自分で選び進めることができる。	69%	75%	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	71%	80%	
②児童生徒が自分で計画を立てて学習をすすめる力を育むため授業において手立てを講じたり、指導したりしている	71%	80%	

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・自己申告に伴う授業観察の際は、指導案を廊下に準備し、積極的に気軽に授業を見合う機会をつくる。
- ・管理職の授業参観では、選択させる場面を必ず取り入れた授業を全教員が行う。(2 学期以降)

総括(7月)

全国学力状況調査の結果を見ると、3教科とも全国平均を大きく下回っている。各教科での無回答の割合も高い結果となった。基礎的学力の定着はもちろんのこと、知識をもとに応用・活用する力を身に付ける必要がある。そのために、まずは選択の場面を積極的に設定し、児童が学習の中で必ず自分の考えをもてるようにする。学年の実態に合わせ、選択した理由を短い言葉で友達に伝えたり、一文にまとめたりする活動を増やし、思考し、表現する力も高めていきたい。

総括(1月)

児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、課題に取り組むが、できないことがあると諦めてしまったり、次の手だてを取ったりすることができない。どこができていないのか、どうすればよいのかを振り返って考えられない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○子どもたち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

**具体的な手だて①**

学習内容や学習計画を単元の初めに示し、見通しをもたせる。

具体的な手だて②

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても毎時間設定する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・研究の Classroom をつくり、日々の実践や意見、相談を日々書き込めるようにする。
- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.3	85.0	82.5
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	72.5	75.0	78.5

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83.3	85.0	90.5
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	84.0	85.0	78.5

総括(5月)

全国学力学習状況調査の結果を見ても、無回答という児童が10%程度おり、最後まで粘り強く取り組むという力が弱い。それは、授業において、受け身的な授業が多く、児童自身に目標や目的がない状況であることや、自ら学び方を選択しながら学ばせることができていなかったことに課題があるからではないかと教員から声が上がった。そこで、日常の授業において生徒に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

教員の意識としては、児童に選択させる場面を設定し、授業改革は推進されている。しかし、児童自身が自ら計画を立てて学習できているという自覚は、教員の意識ほどはない。教科によって、単元によっては、もっと児童に計画を立てさせ、またそれを振り返らせる場面を設定していくことが必要である。分からない問題やできないことをへの対処方法についても手だてが必要である。